

ともに支え合い、ともに生きる

はじめに

世界には私たちがまだ知らないことがたくさんある。食べ物、文化、そして音楽。世界にはそれぞれが大切にしている文化や、多様な価値観がある。日本にも、伝統的な文化や言葉があり、世界にも伝統的な文化がある。それらに目を向けることで、世界は多様であることや、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であると気付く。そこで、ナミビアを通して異文化への興味・関心を持ち、広い視野で物事を考える力を養って欲しいと思い、教材づくりに至った。

この教材の使い方・参加のルール

この教材は、小学生の児童を対象としている。ナミビアを通して世界の文化や音楽を身近に感じ、多様な価値観に触れることができる。アフリカの伝統的な楽器「ジャンベ」を演奏することで、多様な文化の一つに触れることを想定している。

全体のねらい

国際交流の果たす役割を考え、表現することを通して、我が国と経済や文化などの面で繋がりの深い国の人々の生活は、多様であることや、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であると気付く。学習したことを基に世界の人々と共に支え合い、ともに生きていくために大切なことなどを多角的に考えようとする態度を養うとともに、これからの自分の生き方について考える。

アクティビティ1 「アフリカの音」

●概要

このアクティビティは、全学年・音楽科を対象としている。授業の導入では、「アフリカの音」という絵本の読み聞かせを行う。この中にアフリカで演奏されている太鼓「ジャンベ」という楽器がでてくる。赤ちゃんの誕生を祝うとき、みんなで力を合わせて働くとき、楽しむとき、祈るとき、そして心や身体の病気を治すときなど、生活や人生のどんな場面でもジャンベを演奏し、その周りで踊る。そうすることで人々は自然や祖先の魂や目に見えない力の世界とのコミュニケーションをはかる。そのジャンベを実際に叩き、アフリカ独特のリズム、アフロビート（ポリリズム）を演奏してみる。

●ねらい

世界の様々な音楽に親しみながら、音楽の面白さやよさを感じ取ると同時に、それらの音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みと結び付ける。

●主な対象

小学生～中学生

●用意するもの

- ・ジャンベ
- ・絵本「アフリカの音」
- ・アフリカに関する動画、写真など（著作権フリーのものを検索する）
- ・ワークシート①（P22）：全員分

●所要時間

45分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 絵本「アフリカの音」の読み聞かせをする。	アフリカで演奏されている楽器、「ジャンベ」について知る。 ※アフリカの写真を投影するなど、子どもたちのイメージを膨らませることができると良い。
2. ジャンベを叩く。	ヤギの皮であることを理解させた上で、ジャンベを叩かせる。
3. ワークシート①を配布し、アフリカの独特なリズムのアフロビート（ポリリズム）について解説する。ワークシート①に記載されたリズムに合わせてジャンベを叩く。（12拍子のリズムで、●のところでジャンベを叩き、○のところはリズムをとるだけでジャンベを叩かない）	アフロビートの独特なリズムの雰囲気を感じてチャレンジしてみる。 下記「用語の解説」にある動画等を使っても良い。
ふり返し アクティビティを通して気づいたこと、また実際にジャンベでアフロビート（ポリリズム）を叩いてみてどう感じたか、ワークシート①の記入を通してふり返る。	

●用語の解説、資料

アフロビート：音楽のジャンルの一種。ポリリズムとは、単純なリズムの組み合わせから現れる、より複雑なリズムのこと。

参考文献・引用資料

- ・『アフリカの音』 沢田 としき（作・絵）、講談社、1996年
- ・動画「世界一わかりやすいアフロポリリズム解説！ West African Polyrhythm Analysis」
https://www.youtube.com/watch?v=RN0T8_P2WDc
- ・「Afriqua『ブラックミュージックの原則：ポリリズム』」
<https://www.ableton.com/ja/blog/afriqua-presents-principles-of-black-music-polyrhythms/>

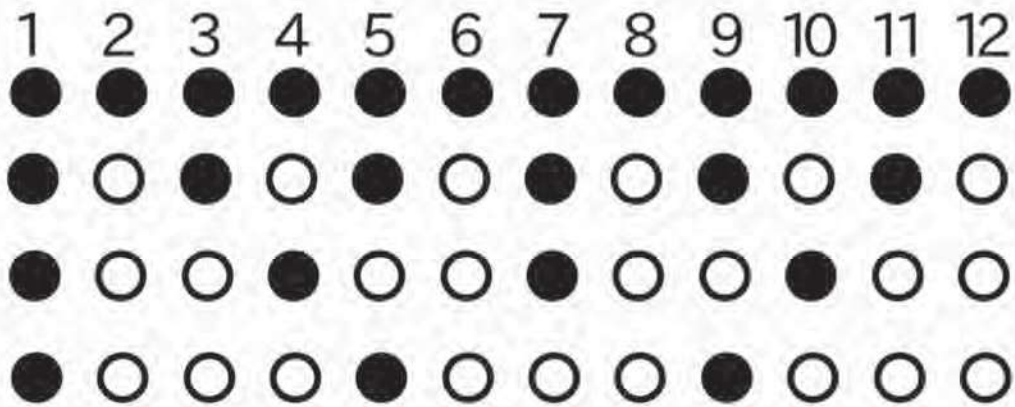


アフリカの音

名前【 】

♪ 演奏してみよう

典型的なアフロポリリズム



♪ 振り返ろう

演奏してみて、気が付いたことや、難しかったところを書きましょう。

アクティビティ2 「世界の中の日本」

●概要

このアクティビティでは、アフリカ大陸の一部にあるナミビアの学校生活について考える。外国の人々の生活の様子などに着目してまとめることで、日本の文化や習慣との違いを捉える。

ナミビアの小学生は宗教によって話す言語が違い、伝統的な衣装が違う。その伝統的な衣装を着て登校する日もある。ナミビアは、伝統や宗教が生活の中に根付いていることに気付かせたい。また、日本と比べてどんなところが同じなのかを考えさせたい。同世代の世界の子どもたちがどんなことを考えているのかを知ることで、ともに生きていることを実感し、距離は遠いが、身近な存在と捉えてほしい。そして、日本から遠く離れた国、知らない国を知ることによって多様な価値観や文化を知り、良さを知るきっかけになると考える。

●ねらい

- ・ナミビアを通して異文化への興味・関心を持ち、広い視野で物事を考える力を養う。
- ・日本と世界との関わりについて考える中で、これからの自分の生き方について考える。

●主な対象

小学校6年生

●用意するもの

- ・パワーポイント①（P25参照）
- ・タブレット（Jamboard）または模造紙とふせん
- ・ワークシート②（P28）

●所要時間

45分

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. パワーポイント①を使ってアフリカ、ナミビアについて知る。	アフリカの気候や、面積など基本情報を学習する。 ※すでにアクティビティ1などで国や地域の概要を学習している場合は、これまでの学びの振り返りとしても良い。 ①全体に「ナミビアについて今までの学習でどんなことを学びましたか。」と問う。 （回答例：「自然が豊か」「伝統的な衣装を着て、登校する日がある」など） ②個人で考えた後に、さらに内容を詳しく捉えるため、ペアやグループで意見を共有する。

2. パワーポイント①を使って、ナミビアの小学校や小学生の生活について知り、日本の生活と比較する。まずは個人作業でふせん1枚に1つずつ、似ている点、異なる点をあげていく。 3. グループで考えを共有する。 <想定される意見> (日=日本、ナ=ナミビア、共=共通、似ている点) [衣] ・季節によって服装が違う (日) [食] ・給食がある。(共) ・世界中の料理が食べられる。(日) [住] ・校舎は1階しかない。(ナ) ・小3から英語の学習をする。(日) ・学校は午前と午後で子どもが入れ替わる。(ナ) 4. 3. で出た意見をもとに、自分が暮らしている日本と比較し、疑問点や感想を共有する。 (例:「なぜ、考え方や見た目が違う人と仲良く生活できているのだろう」、「互いを必要とすることが大切なのではないか」、「どんなことを考えながら生活しているのか、もっと話を聞いてみたい」など)	※伝統や宗教・文化が生活の中に根付いていることに気付くように配慮する。 日本とナミビアを比較させながら、似ている点や違う点を意識して考えさせる。 タブレットを使用する場合はJamboardを活用する。無い場合は、模造紙とふせんを使ってグループ内で出た異なる点、共通点などを整理していく。(P27「Jamboard見本」を参照)
ふり返し ワークシート②に感じたこと、意見をまとめる。	

パワーポイント①

ナミビアってどんなところかな？



ナミビア



日本

どのくらいかかるかな？



ナミビア

合計21時間10分

アフリカってどんなイメージ？



ナミビアのきれいなけしき



ナミブ砂漠(さばく)



DEADVEI(デットフレイ)



地平線(ちへいせん)



ナミビアクイズ

ナミビアのさばくはつめたい？
(ひるま)

○ か ×

ナミビアのさばくは
きいろである？

○ か ×

ナミビアでは、
日本人がすんでいる？

○ か ×

ナミビアでは、
オリックスという動物がいる？

○ か ×



オリックスを食べる？

○ か ×



肉(オリックス)

ナミビアでは
雨が少ないがお米ができる？

○ か ×

ナミビアの人たちは、この写真
のようなところにすんでいる？

○ か ×

ナミビアのまちのようす



どこがちがうかな？
どこがおなじかな？

ナミビアには小学校がある？



○ か ×



ナミビアの小学生



どこがちがうかな？
どこがおなじかな？



どこがちがうかな？
どこがおなじかな？



あるものを使って工夫!!



ここでは何をしているのかな？

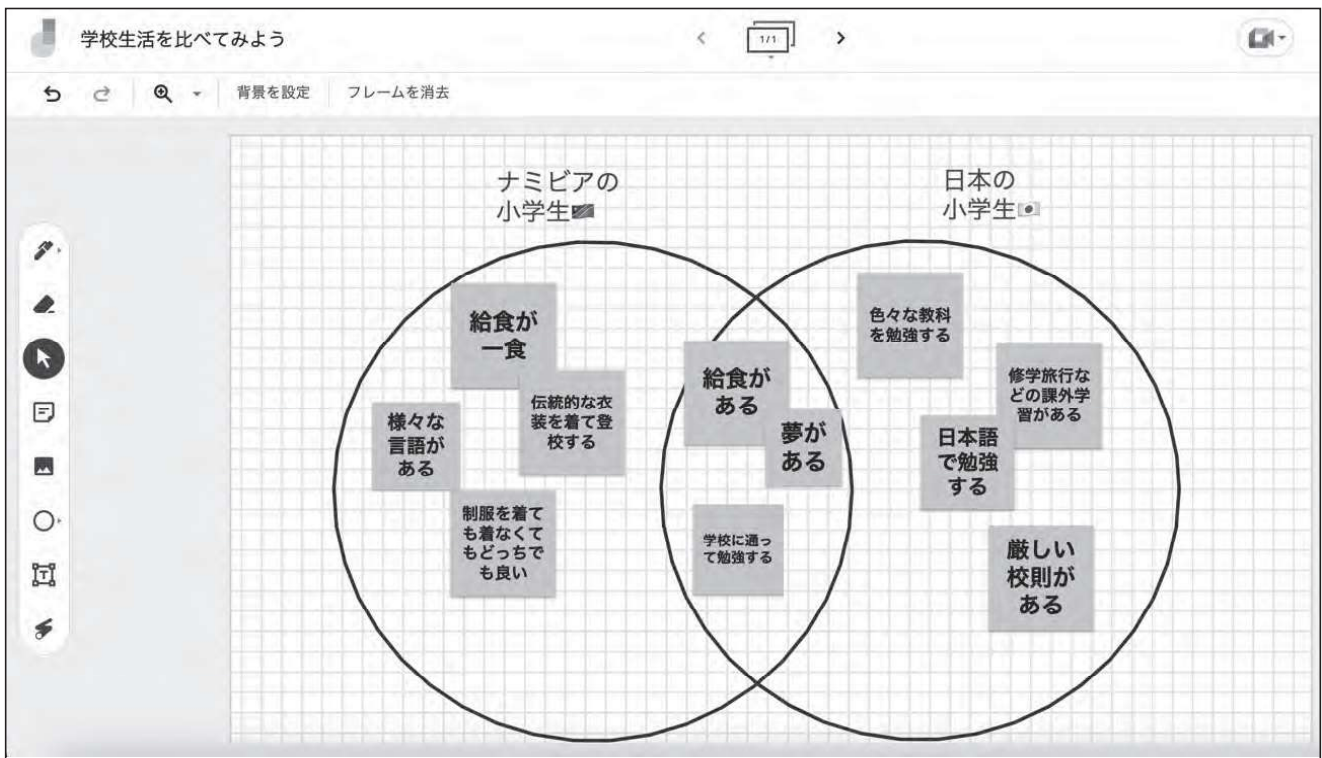
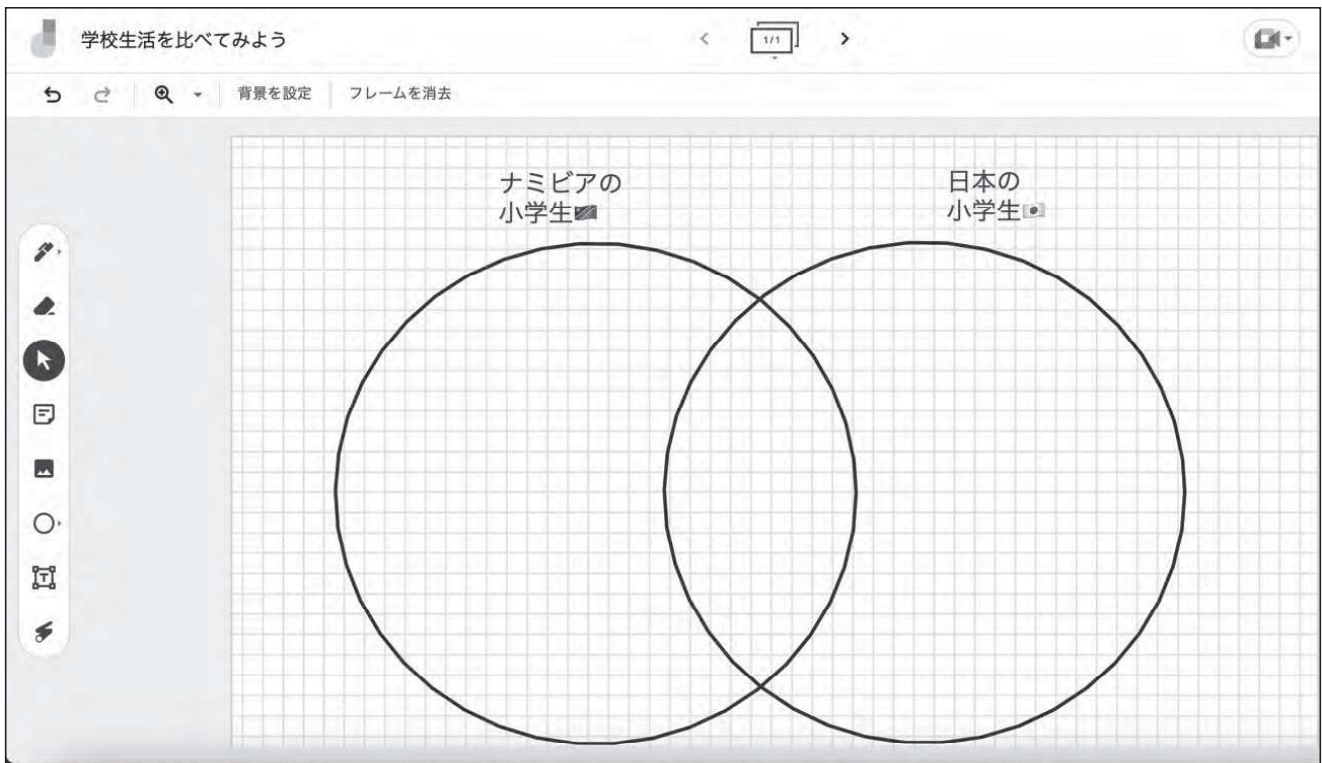


どこがちがうかな？
どこがおなじかな？



Jamboard見本

※共通点、違う点を整理するためのものなので、ふせんの配置場所、まとめ方は教師や児童が自由に考えて良い。



世界の中の日本

問題

日本とナミビアの各国の文化・産業・自然などにはどのような特色があるだろうか。

	ナミビア	日本
衣食住の特徴		
学校の様子や子どもたちの生活		
季節の行事		
産業や自然		
日本とのつながり		

おわりに

実際にナミビアで学んできたことを通して、子どもたちにナミビアを身近に考えさせたいと思った。子どもたちにとって、日本から遠く離れた国、知らない国を知ることによって多様な価値観や文化を知り、それぞれの良さを知るきっかけになると考える。視野を広く持って新たな価値観に出会ったり、それを通じて日本の良さに気付いたりすることができる。様々な価値観について認め合うだけでなく、多面的・多角的な視点から捉えられる力を養うことが大切だと思った。

実践事例報告

プログラム作成・実践者 井上裕美子 学 校 名 西条市立田野小学校

担当教科 全教科

実践教科 音楽科（小学校6年生）、特別な教科 道徳・国際理解 国際親善

単 元 名 「世界の音楽に親しもう」

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ：「アフリカの音」

(2) 単元のねらい

世界の様々な音楽に親しみながら、音楽の面白さや良さを感じ取ると同時に、それらの音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みと結び付ける。

(3) 授業の概要

学習活動	時間 (分)	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◎評価
1 絵本「アフリカの音」の読み聞かせを行う。	10	○ジャンベってどんな楽器ですか。 ・アフリカの伝統的な楽器。 ・ヤギの皮が使われている。 ・いのちをいただいている。	○本時のめあてにつなげるために、「ジャンベ」について知る。
リズム、響きの特徴を感じ取りながら演奏の仕方を工夫して、演奏を楽しむ			
2 ジャンベを叩いてみる。	10	○ジャンベを叩いてみよう。 ・どんな風に叩くといい音が鳴るだろう。	○伝統が生活の中に位置づいていることに気付かせる。
3 アフロビート（ポリリズム）を叩く。	10	◎アフリカの独特なリズムを叩いてみよう。 ・いつものリズムと違って難しい。 ・何分の何拍子なんだろう。	◎ジャンベの演奏を工夫して行うことができたか。（演奏）
4 感じたことや考えたことを書く。	10 5	○伝統的な楽器を叩いてみてどうでしたか。 ・アフリカにはアフリカの伝統がある。	○「ジャンベ」が伝統的な楽器であり、いのちをいただいていることに気付かせる。

(4) 指導上の留意点

世界の様々な音楽に親しみながら、音楽の面白さや良さを感じ取ると同時に、それらの音楽を特徴付けている背景（文化、民族、歴史など）と音楽の仕組みを結び付けていきたい。また、音楽を聴く中で感じ取ったことや聴き取れたことを言葉や文字で表現し、児童が互いに伝え合うことで、それぞれの感じ方や受け止め方の違いを認め合う態度、能力を育てたいと考えた。

(5) 児童生徒の感想や学び・気づき

- ・ジャンベについて知ることができた。
- ・アフリカの伝統的な楽器を初めて知った。鳴らしてみると、とても響く音で驚いた。
- ・演奏会では、楽しんで演奏することができた。これからも、世界の音楽を演奏する機会があったら演奏してみたい。

(6) 児童生徒の様子



音楽フェスティバルの様子



ジャンベを叩いている様子

【授業実践をした上での感想・ふり返し】

この授業を行った後の2ヶ月間、4～6年生の児童は「音楽フェスティバル」に向けて『ライオンキング』の合奏を練習していった。ジャンベを主役とした構成とし、本番ではアフリカの大地をイメージして、セリフやアフリカのダンスも交えて演奏を披露することができた。演奏曲のルーツとなった地域や国について一定程度の時間をかけて学ぶことで、アフリカの文化や伝統を身近に感じることはできたのではないだろうか。世界の音楽を知ること、日本の伝統的な音楽にも目を向け、お互いの良さを大切にして、音楽と関わって行って欲しい。